

斜里町の自治会

斜里町には37自治会あり、3部会と各自治会連携のもと、地域住民の皆さんの暮らしやすいまちづくりを支えています。

斜里町自治会連合会

自治会長・各部長等から構成され、自治会の事業運営や地域住民の積極的な自治会活動への参加を促進する活動を行う。

【主な活動】

自治連だよりの発行、SNSでの情報発信、町理事者・教育長との懇談会の開催、研修・交流会の実施、正副会長会議・理事会の実施



防犯部会

- ・ 歳末啓蒙活動
- ・ 防犯啓蒙のぼり旗の設置
- ・ 各種防犯活動への参加など



環境衛生部会

- ・ 清掃活動の呼びかけ
- ・ 前浜清掃
- ・ 花いっぱい運動
- ・ 清掃コンクールなど



児童福祉部会

- ・ 縁日等町内行事への協力
- ・ クリスマス会等の開催
- ・ 育成者、ジュニアリーダー等の研修開催

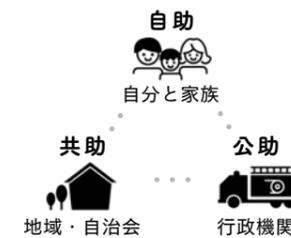


単位自治会（37自治会）・会員



＼ そもそも /

自治会の役割って？



自治会は、町民生活の最低限の保障「共助」を担っています。行政の手の届かない、細やかなご近所同士の助け合いは、よりよいまちづくりのために必要不可欠。暮らしの中での困りごとなど、必要な情報を自治会が束ねて行政への橋渡しをしているのです。

自治会は、現在も地域コミュニティにおいて中心的な役割を果たしています。が、担い手不足は深刻化しており、斜里町でも若い世代の加入率の低下、高齢者の負担増が課題となっています。本特集では、斜里町における自治会の現状と課題、そしてこれからの自治会活動について考えていきたいと思います。



自治会のこと

一知っていますか？



▲中斜里自治会神社祭典

する様々なイベントにおいても課題を感じているのだそう。門間さん「一部に小学校があった頃に比べて地域のコミュニティの場が減少してきていた。自治会単位でイベントを開催しても対象の子どもの数が少なかったり…。今後は、学区などより広い枠組みでイベントを開催し、親子から高齢者まで幅広い世代が交流できる場を作っていく必要があると感じます。また、イベント参加によって何かメリットを作ることができると、より参加者も増えていくかもしれません」

自治会による世代間交流は、子どものコミュニケーション能力の向上や高齢者の生きがい創出に繋がるのだと伝え、自治会の形やあり方を変えながらも、地域住民同士が交流できる場所をつくり続けていく必要があると訴えます。

時代に沿った新しい自治会のあり方

さらに、これからの自治会運営、ひいては自治会活動の持続可能性を考える中で、変えていかなければならない面もあるといえます。

横田さん「コロナ禍を経て人々の行動や交流の仕方に変容が生まれた今、自治会運営は過渡期を迎えていると感じます。現在、自治会では自治会専用アプリ「結ネット」を令和6年度から2年間の試験導入を行い、会員同士の事務連絡や出欠確認などをオンライン上でできるよう検討中。今後、閲覧板なども減らしていければ、自治会への抵抗感・負担感が軽減され、加入したいと思う若い世代も増えていくのではないのでしょうか」

自治会はこれからも地域住民同士の「共助」を担うため、存続していくことが求められます。しかし、それは決して従来通りのままの形である必要はなく、これからの時代に沿った新しい自治会のあり方を模索していくことが重要となっていくと思います。

今回お話を聞いた人



自治会連合会 理事
児童福祉部 会長
もんま てつや
門間 哲也さん



自治会連合会 会長
よこた あきら
横田 章さん

自治会のこれから

自治会加入率減少の背景

担い手不足や加入率の低下など、様々な問題を抱える自治会。昨今、社会的にも度々議論の対象となる中、今回斜里町の自治会活動に大きく貢献していただいているお二人にお話を伺いました。

横田さん「今の時代、若い世代にとって自治会への加入はメリットを感じづらいのだと思います。加入の主な理由としてゴミステーションの利用がありますが、集合住宅などでは集合住宅単位で設置してあるため、さらに加入しなくなってきたという現状があります」

自治会への積極的な参加を求める気持ちがありつつも、若い世代の加入率低下はやむを得ないと感じている側面もあるといえます。

世代間交流の拠点としての自治会

また、児童福祉部会長である門間さんは、自治会で開催